

二〇二四年七月一九日

ひめじよをん隠れに傾ぐ売地札
朝蟬の調べに和して卵とく
玻璃窓をま白に叩く暴れ梅雨
人形と見紛ふ稚児や鉾祭

風 民
あひる
えいじ
山 椒

二〇二四年七月一八日

不意打ちの水鉄砲を喰らひけり
滝垢離の白衣ありとぞ行者寺
御手洗の涼し金魚を泳がせて
断捨離の取捨に迷ひし更衣
電車いまビルの途切れて西日さす
一庭の涼し悟りの窓越しに

かえる
うつぎ
ぼんこ
うつき
えいじ
董 雨

二〇二四年七月一七日

夏草を薙ぎ倒しゆく鬼ごっこ
包丁の切れ味悪し梅雨厨
家居夫注文ばかりただ暑し
フレイルの予防を学ぶ夏期講座
尺取の尺取り終へて空振りす

かえる
よし女
もとこ
千 鶴
明日香

二〇二四年七月一六日

隣家より風鈴の音もらひけり
藍玉の土間いつぱいに匂ひたり
磯料理刺身は萩の瀬付き鱒

康 子
む べ
よし女

二〇二四年七月一五日

鯉跳ねてまた静まりぬ池涼し
噴水の穂先崩れてニンフ立つ
旧道の隧道塞ぐ葛かづら

風 民
よし女
うつぎ

二〇二四年七月一四日

筒抜けに海風通ふ夏館
落蟬と触るれば蘇生して翔ちぬ
片陰を忍者歩きに辿りけり
旅楽し派手めを選ぶ宿浴衣
老鶯の雨の一声それつきり

澄 子
こすもす
智恵子
たか子
よし女

二〇二四年七月一三日

ソーダ水透かして眺む沖の船
男らの不景気託ち冷素麺
所化僧の水を足しをる蓮の鉢

智恵子
なつき
せいじ

毎日句会みゆる選・二〇二四年七月二日